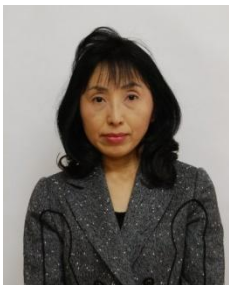


# 家庭教育支援協会

## ニュースレター 第4号

### 安らげる場所として



二川 早苗  
家庭教育支援協会 理事  
家庭教育アドバイザー、家庭教育師  
世田谷区スポーツ振興審議会委員、関係者評価委員  
筑波大学大学院教育修士 筑波大学大学院一貫制博士課程哲学・思想専攻在籍中

今年も春が巡ってきました。

嬉しいことも悲しいことも包み込んで時は流れていきます。

私自身、年を重ねて変わることの難しさと変わるものへの憧憬を覚えることも増えてきました。

それに引きかえ子どもはすこし目を離すと、驚くほどの成長を遂げることがあって、正直かなわないなと思うこともあります。でもそれが嬉しかったりします。

健やかな成長を願って子育てをしてきたつもりですが、リアルな子育ては理想通りにいかないことばかりです。

家庭教育支援協会は、そんな私をそしてあなたを共に支えエンカレッジする団体です。ですからこの会報をお読みの会員ひとりひとりが、教える人であり、教わる人であるという相互関係の可能性を秘めています。子育て中のおかあさんやおとうさん、それを見守るおじいちゃんおばあちゃん、あるいは近所の人といった家庭の教育にかかわるすべての人と共に成長していくことができれば、支援協会にとってこれほどの喜びはありません。

心理学者のE. H. エリクソンは「すべて成熟した成人は、自分が大事にし、価値をおいているものを伝え、しかも求める心でそれが受けとめられ、理解されたときに感ずる満足感を知っているものである」として、人間としての生きがいは次世代へのケアにあると述べています。このことは、まさに子育てに通じるものであり、家庭の役割といってもいいのではないかと思います。深い知識や熟した判断力に裏付けられ、それぞれの年齢に応じた知恵のかたちで次世代にかかわることが家庭教育の一つの側面ともいえます。けれどもそれは、絶対的なものではなく、やがては、自分を乗り越えるものからの厳しい働きかけに甘んじなければならない日が訪れるのは必ずですし、それを待たねばなりません。

家庭は常に新しい世代と古い世代が出会う結節点です。その場所が満ち足りたものであると感じるならばより一層、そうなるように、そうではなく苦しい場所であるならば、もう一度結びなおして、安らげる場所になるように、お手伝いしたい。その一助を担える協会として、家庭教育支援協会の活動は今後ますます時代の要請に応じていく必要があると思います。

当支援協会が三度目の春を迎えることができましたのも、会員みなさまのお力添えあつてのことと、深く感謝申し上げます。

家庭教育を支援することは、すなわち自分が成長することと把握し、多様化する家庭や家族のニーズに寄り添い応えることができますよう、みなさまと共に研鑽を積んでまいりますこととお誓い申し上げて巻頭の言葉とさせていただきます。

今年度に行われた活動についてご報告申し上げます。

## 平成24年度 家庭教育支援協会 下半期活動報告

自 平成 24 年 10 月 1 日  
至 平成 25 年 3 月 31 日

| 年月       | 日 | 事業内容  | 場所                     | 参加人数      |
|----------|---|---|------------------------|-----------|
| 10       |   | 公開講座(3ページ参照)  | 八洲学園大学                 | ライブ配信 33名 |
| 11       |   | 公開講座(3ページ参照)  | 八洲学園大学                 |           |
| 12       |   | 公開講座(3ページ参照)  | 八洲学園大学                 |           |
|          | 5 | 一般社団法人 全国育児介護福祉協議会講演会<br>講師 教育評論家 川越 淑江 氏   | 東京都新宿区新宿<br>6-16-6東京支社 | 多数        |
| H25<br>2 | 2 | 神奈川県教育委員会ファミリーコミュニケーション運動<br>《子育て・子ども教育を考える》<br>講演 「いま育みたい徳について考える」<br>講師 石井 雅之 氏 (八洲学園大学教授)<br>座談会   | 八洲学園大学<br>7A 教室        | 3名        |
|          | 9 | 神奈川県教育委員会ファミリーコミュニケーション運動<br>《家族の絆・家族愛を考える》<br>講演「現代ネット社会における家庭教育の心得」<br>講師 平良 直 氏 (八洲学園大学准教授)<br>座談会 | 八洲学園大学<br>7A 教室        | 9名        |
| H25<br>3 | 2 | 家庭教育師・家庭教育アドバイザー交流会   | 神田アメレックスビル             | 7名        |

### ●その他

- ・家庭教育支援協会ニュースレター第2号、第3号発行
- ・家庭教育支援協会コラム 毎週月曜日掲載 HP <http://kateikyoku.com/index.html>
- ・親学び・親育ち支援ネットワークへの参加
- ・日本家庭教育学会常任理事会への出席
- 別途、定例理事会、並びに 各委員会会議が、随時行われました。

## 平成24年度 家庭教育支援協会静岡支部 下半期活動報告

自 平成 24 年 10 月 1 日  
至 平成 25 年 3 月 31 日

| 年月 | 日  | 事業内容   | 場所            | 参加人数            |
|----|----|--|---------------|-----------------|
| 1  | 26 | 静岡支部 第4回 家庭教育講座<br>「ドラムで自分の心を奏しよう～自分を開放～」<br>鈴木知子氏 今井まゆみ氏(両氏ともに静岡支部会員) | 静岡市駿河区<br>葵学園 | 会員 3名<br>一般 11組 |
| 2  | 23 | 静岡支部 第5回 家庭教育講座<br>「あ!そうか!(^^)!気づきの子育て～やる気を育てる～」<br>八木由紀理事             | 静岡市駿河区<br>葵学園 | 会員 2名<br>一般 7名  |

# 活動報告 ～八洲学園大学における

## 家庭教育支援協会 公開講座～ 10月～12月

自 平成24年10月1日

至 平成24年12月31日

| 月  | 日          | 事業内容                                   |
|----|------------|--|
| 10 | 6・13・20(土) | 講師 木村 孝子 「思春期のドロップアウト」                 |
| 10 | 25(木)      | 講師 和田みゆき 「合格を勝ち取るママになる為の家庭で行う受験サポート講座」 |
| 11 | 24(土)      |  |
| 11 | 毎週水曜       | 講師 松本 美佳 「自然療法で考えるホームケア&子育て」           |
| 12 | 5(水)       |  |

### ～公開講座開講の感想と反省～

2012年10月に公開講座を開講させていただきました。テーマを『思春期のドロップアウト』として、これまで講演などでお話させていただいていた内容に、時間の都合でご紹介できなかった事柄も加え、考えや想いを存分に詰め込んで臨みました。

公開講座は本来開講するに当たり事前の審査がありますが、当協会の推薦として無審査で開講させていただきました。公開講座はネット配信で行いますが、対面講座と比較して準備自体はほぼ同様です。異なることといえば、開講日の前にパワーポインターで作成した資料を大学の事務局に送信し、システムに対応したメディアを用意していただき、当日教室にて大学のシステムを使用しカメラに向かって講座を進めることだと思います。終了後は事前に受けた指示に従い事務局に書類等を返却して終わります。

時間や回数を自身で決められることから、時間に縛られて内容を削る必要がないのは利点だと感じました。対面での講演と大きく異なるのは、受講者の反応はチャットへの書き込みから読み取る必要があることでした。ライブでの講演は受講者の方々の表情などからも手ごたえを感じることができるのですが、チャットですとタイムラグだけでなく表情が見えない分、書き込みの内容を正確に把握することが難しいと感じました。

今後も機会を与えていただければチャレンジしていきたいと思います。

家庭教育支援協会理事 家庭教育師・家庭教育アドバイザー 木村孝子

# 活動報告 ～(社)全国育児介護福祉協議会における育児講演会～

## テーマ「子どもを挫折させる親のタイプ」

12月5日

川越 淑江

家庭教育学会副理事長

今日の家庭を見渡せば、不登校、学業不振、非行、家庭内暴力、引きこもりといった挫折した子どもの問題が数多く存在していますが、全てに共通するのが親子関係の問題です。子どもを挫折させる親には①家庭内の不調和②放任③過剰対応の三つのタイプがあります。特に過剰対応には過剰保護、過剰干渉、過剰期待の三過剰があり、これらのタイプの親が子どもに対して手をかけ過ぎて、挫折させることが多いようです。

子どもを育てるうえで大切なことは、独立自治の精神を培うことであり、これが家庭教育の要諦です。ところが親が子どもに対して過剰対応をしてしまうと子どもの能力が伸びません。子どもを育てるには、教えることよりも考えさせたり、試すことが大切です。これらの経験が発見や創造を導きますが、失敗もときにはあるでしょう。しかし、そこから何かを学び、逆境を乗り越える力を養うことができるはずですが、過剰干渉をする親は子どもを「指示受型人間」にしてしまいます。子どもが行動する前に口出しをするとやる気をなくし、親から言われなければ何もできないロボット人間にしてしまいます。さらに子どもに対して過剰期待し、他人と比べることによって子どもを損なってしまうこともあります。

子どもの能力を伸ばすには、認めて、褒めて、喜んで、期待をすることが必要ですが、これが過剰になると、能力を伸ばすことができず、挫折してしまいます。子どもにできないことまでさせたり、突き放して愛情をかけないことのないように心がけたいものです。適切な養育態度こそが子育てにとって望ましい在り方なのです。

# 自己紹介

家庭教育支援協会に所属する会員の皆さまを、毎号 2 名ニュースレターでご紹介しています。  
家庭教育への思い、活動の様子、今後の抱負など、それぞれ思い思いに語っていただきます！

家庭教育支援協会 会員 吉永 里江子

皆様 はじめまして 日本家庭教育学会認定家庭教育師の資格を頂いて今年の 4 月で 3 年になります。家庭教育歴 13 年。現在は 2 グループ、4 講座。また、港北区「まちの先生」として隔月に 1 講座を、合わせて 5 つの、保護者のための「子どもに学ぶ家庭教育」講座を横浜市港北区の公共施設 3 箇所をお借りして、主催者とスタッフと共に開催しております。川越淑江先生が所長をされた東京家庭教育研究所の講師養成講座の基礎科・研究科(2 回)を終了致しました。この家庭教育支援協会の会員になったのは、川越先生から家庭教育支援協会が、かながわ県民センターの「かなコミ」で講座開催をすると教えて頂いたのがきっかけです。



息子が 3 歳の時から「子どもに学ぶ家庭教育」を学びながら子育てしてまいりました。その子がもうすぐ 26 歳になります。家庭教育の出会いは、「夫婦の姿が子どもの姿である」ことを自覚させてくれました。「成長発達にあった触れ方で、豊かな心を育て、自立させ、良い子に育てる(社会の役に立つ人間らしい人間に育てる)」この親の自覚を学び、現在も実践する毎日です。が、「私が変われば子どもが変わり、子どもが変わらないときは私も変わっていない」という精神循環の法則を熟知していても、私を変える難しさを実感しています。参加される母親の心に寄り添いながら「未来から来た留学生」とのふれ合いの秘訣、幸せな家庭づくりのお手伝いをさせて頂いております。

家庭教育支援協会 理事 攝待 逸子

「家庭教育」という分野を学問として体系的に学べる大学がある。

それが八洲学園大学との出会いでした。3 人の子供たちもそこそ手がかからなくなり、また長女が大学入学の年、私も娘と一緒に再び大学生をやってみようかと思ったのです。2004 年の春でした。何故「家庭教育」だったのか？その頃の私の一番の関心事は「虐待」でした。何故わが子を虐待するのか？痛ましい事件が起きるたびに、悲しみや怒りが湧いてきました。個々の問題ではあるかもしれないけれど、これは社会問題ではないだろうか。「家庭」「家族」をもう一度原点に還り考えてみる必要を感じました。八洲での 4 年半は充実した時間でした。



現在、私は地域で民生児童委員をしながら、子育てサークルのお手伝いや地域の方々のニーズにあった支援をするよう心掛けています。子育てサークルでは、若いお母様方と交流しながら相談や時には悩みにお答えしています。また、かわいい子供たちの姿や声に逆に癒されています。高齢者世帯を訪問していつも感じるのは、家族のつながりです。家族としてどう過ごしてきたか、家族の歴史がそのまま反映されるように思います。自分が年老いた時の姿もシュミレーションしながらお話を伺っています。私の小さな力で、少しでも多くの幸せな家庭が増えてくれることを希望しています。

～編集後記～

家庭教育支援協会 理事 八木 由紀

早いもので、協会が産声を上げてから、すでに 4 度目のニュースレターを発行するまでに至りました。皆さま方には、この場をお借りして感謝申し上げます。

本協会は、試行錯誤を重ねながら、遅々とした歩みですが一步一步着実に前進していると感じます。家庭教育アドバイザーの方々の活躍の場を広げるという意味においても、今後は、事業内容を広げ、対外的に協会を PR していくことが必要なのかもしれません。新たな一歩を踏み出すためにも是非、皆様のアイデア、ご意見をお聞かせください。ご協力をお願い申し上げます。

★編集部(コラム・会報委員会) adviseryuki@yahoo.co.jp